常磐毎日新聞
日刊
十一月二十九日夕刊
定價 [illegible] 一ヶ月金五拾錢 [illegible]
廣告料 普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜・祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 [illegible] 平 [illegible]町三五
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社 （振替口座 東京 [illegible]）

天氣豫報

今晩は北の風 晴
明日は北の風 晴一時曇

二百餘萬圓の巨費 空しく海中に埋沒

大藏省の削減に依つて…無價値に歸した小名濱港

地元民が憂慮

竣工以來一年有半を閲しながら未だ開港の運びに至らず全く〃無用の長物〃的存在の觀を深めてゐる小名濱商港は今回の第二期工事に對する大藏省の削減によつて一層その利用價値が疑はれるに至つたが、現在の小名濱は極く切詰められた豫算によつて築港されたゝめ港内外の諸施設は完備せず、三千トン汽船の入港も少なからず危ぶまれてゐる狀態で一部識者間には畸形兒的商港とさへ叫ばれて居り今後何等かの方法によつて第二期工事の急施を見ざる曉は二百餘萬圓の巨費を投じた小名濱商港は流砂其他で殆ど無價値になるものと非常に憂慮されてゐる

勿來成績展

勿來小學校の兒童作品展覽會はこの程開催されたが榮ある特選入賞者は左の如くである

△書方尋六赤津光衛△圖畫高二佐竹政二△手工尋六佐竹良延△手藝高一市川郁子△裁縫高一川井貞子

小名濱支局通信

商港第二期運動と町民の覺悟

支局長 小野 務

小名濱商港第二期工事施行運動に就ては地許小名濱町は勿論縣當局も不斷の努力を拂つて其實現運動に走奔を續けて來たのであるが内務省の方針としては能く工事其ものの實際に即した見地から飽迄施行の方針で大藏省との折衝を重ねて居ると雖も時局柄如何にしても容認し難い方針の元に新規事業の一に加へ港灣關係は小名濱港と言はず甲も乙も一連托生、之を葬り去られるに至つた

これ國家の大局から見て或は當然かは知らねども小名濱港の如きは商港其ものはよしと雖も商港と關連したる漁港亦これが爲めに全滅せんとするに至りてはこれこそ國家産業の上に一大問題を醸成するに至る事を考へねばならぬ

つまり商港の未完成は國家有事の場合を考慮して其工事の第二施行の速成は或は容易でないとしても漁港は水産報國の見地から決して等閑にはなし得ない事を忘れてはならぬ、他の商港の様に商港其儘の場合と相違して漁港と不可分なる構成地點に於ては深く考慮を拂はねばならぬ

此見地から見て地許小名濱町民が此點に注意を拂ひ居るかどうかを疑ふものである若し町民が茲に重點を置くなれば漁港救濟の一方法として更に猛運動を起すの必要あることを痛感するものである

町當局は昨二十七日急施町會を召集し第二期工事費復活運動に縣知事を動かし最後の努力を拂ふ事を議し更に小野町長は町會に向つて重大事件を發表するに至つた、それは内務、大藏、縣廳、の各官廳に向つて投書を以て商港の速進運動は町長個人の利益の爲めで決して町民の福祉となるべきでないとの意味を書いた投書の内容だと云ふのであるが、これ果して信なりとせば正しく小名濱町を呪ふの憎むべき奸漢であると斷言したい

假初めにも官廳たる處は此等によつて施行すべきものを中止するが如き事無之は信じて疑はざる處であるけれ共、此に出でたる行爲に對しては二萬町民は心を一にして此の奸漢に對し痛棒を加ふるの必要ある事を強調するものである、なぜなれば地許小名濱町の重大時機に際して現町長の椅子を危ふせんとする事は愛町の精神が些少なりとも認め難いものである事を悟らなければならぬ

假りに現町長が私利の爲めに爲す運動としても商港完成に依つて受くる福祉は決して個人として町長の利益のみでない事は三才の兒童も能く知る處であらう、然るに商港の完遂に向つて甚だしき呪ひの言辭を弄するが如きは町民として發し難い所爲とせねばならぬ、こんな行爲に出するものがよし一人でも半人でもある内は事業の遂行など思ひもよらぬものである事を深く知つて置く必要があると思ふ

偶々一現町長にして私利の爲めに活動するとしてもこれは公務に對する報酬位に見て深くとがめるの要がないではないかと思ふものである

二萬町民各位に一言したい事はこの非常時局は獨り國家のみでなく小名濱町としては更に一層の非常時下に置かるゝ事を考へねばならぬ然るに内訌を煽るが如き所爲は斷じて發すべからざるものであつて各自各様自戒自肅して本問題の完遂に協力以て最後の目的に邁進する事に最善の努力を拂ふの一大必要なる事を此機會に特に一言を呈する次第である

（完）

油闇取引事件に 新らたな登場者

購買券の買占めや 石炭との交換暴利

益々擴大す

既報、地方か自動車營業者並にガソリン販賣業者間に一大センセイションを捲起した例のガソリン闇取引事件は其後平署の本田司法主任及び菊地部長刑事が鋭意取調べを進めてゐたがこれが類犯としてこの程植田町横町石炭商久保七郎（五五）同町丸通運送店北郷德助（三一）内郷村綴驛前石炭商笹島鐵男（三九）の三名を檢擧した

同人等はいづれも手先を使ひ東京地方や他縣から巧みにドラム罐を手に入れては一本四、五十圓のプレミアム付で地方に販賣ボロイ儲けをした外更に同様手段でガソリンの購買券を買占め一枚一円四、五十錢で賣却儲をこやしてゐたもので殊に久保の如きは石炭を販賣するに當りガソリン券を持つて來る事を條件として取引してゐたといふ惡質振りが曝露さるゝに至つた

木炭にも大鐵槌

イモ蔓式に檢擧す

（別項）反國策事件の潰滅を期してゐる平署では今度は木炭の闇取引犯人を檢擧した——湯本町字北町木炭米穀商小松キミ（三三）は本年夏頃から公定價格一俵一圓七十五錢の楢丸二等品を一圓九十五錢から二圓で同町字三函菅野福次郎外十數名に販賣したこと發覺檢擧取調べの結果同人は仲買人である茂遊村下山田倉吉（三七）から公定價格より五錢乃至十錢高く買受け更に倉吉は生産者の同村下山田正氣（四二）同大内義勇（三四）の兩名からこれまた公定價格より高く買受けてゐたこと判明芋蔓式に檢擧したがこの外正氣、義男の兩名は東京市荒川區三河島町四丁目木炭商稻見秀吉（三五）小名濱町同鶯幸江（四〇）の兩名に一俵から五錢乃至十錢を儲けて販賣し、この兩名もそれ〴〵儲けて販賣した形跡あり昨二十八日夜檢擧した

磐城長倉坑内に 突如大出水

幸ひ人畜に死傷なく

▽…損害は三四十萬圓

磐崎村字長倉磐城炭礦長倉坑本線又卸し坑千四百米の地點から二十七日午前四時頃突如大出水し入坑作業中の坑夫百五十名は逸早く避難したゝめ幸ひ一名の負傷者を出しただけですんだがそれでも出水速度は一分間七十立方尺で二十八日午前十時まで約一晝夜六時間に及び遂に本線二百五十米及び又卸し坑三百米は水沒するに至つた、損害は三四十萬圓に達する見込みである

禁酒して 恤兵の献金

植田町石井安藏君は小遣錢を節約して金一圓、同鈴木スミさんは二十圓、泉村字下川志村公子さんは二圓、田人村警防團第二分團長蛭田義稻君は禁酒して一圓五十錢を夫々この程植田署を通じ恤兵獻金した

植田青年 体育競技

既報、植田地方二町六ケ村青年團對抗体育大會はこの程上遠野小學校で開催されたが成績は左の如くであつた

◇陸上競技、1錦村2上遠野村3田人村 ◇柔道、1勿來町2植田町3錦村 ◇劍道、1錦村2勿來町3植田町 ◇相撲、1上遠野村2勿來町

大陸を旅して（九）

篠山 廉

一路ハルビンに向ふ

十月六日六時五十分牡丹江を辭し白井、小原の兩氏を初め多數の縣人に送られ綏寧線の客となる車中は相變らず超滿員一行十三名が隣席に坐を占めることなど思ひもよらぬことになつたので車中をうろ〳〵まごついて居ると同驛の滿人の驛員君が其の樣を見ると車中に飛び込みざま（ニーヤブシン〳〵）と乘客の滿人諸君を整理して坐を與へてくれた、誠に氣の毒であり又有難くもあり、こゝでも御國に生を享けた事の幸福を感激しながら驛員君に深く謝して出發した、約十一時間の行程は小興安嶺の麓を走るので滿洲には珍らしい、楊樹や白樺の小さな林を窓外に見る、この地方殊に雉子、山鳥多く、好獵なりせば垂涎將に三尺に及ぶならんその昔、露人の敷設せしものなればにや、各所に歐風の建物の廢頽して今は空家になつて居るのが見える、驛の附近は、當時の何事かを談るにや、土饅を高く積み上げたり、石塊を積んであつたり、してあるが、今は名も知れぬ野草が茂る又各所に木碑が見える、よく見れば某々君戰死の跡と筆太に書いてある、思はず立ち上がつて一々默禱を捧ぐること幾度なるを知らず、時に線路に近く土木工事盛んに行はるゝあれば、穴を堀つて、トンネル型にアンペラを掩ひたる簡易住宅があり、其穴口から小孩（小兒の事）が出入し遊んで居るのを見れば、完全な一家族の住家なり、其生活の程度も察せらる、十八時十分ハルビン驛頭に着く

ハルビン見學

この地北滿の大都なり驛頭に立てる時遙かに紅い夕日が果て知れぬ曠野に沈み行くを眺めつゝ往年、伊藤博文公が、兇刄に仆れたる殉國の跡を尋ぬれば、ホームの中程に柵を廻し、今も尚は其昔を偲ばれ、暫くは低個去り難く默禱を捧げて佇立する内、促されて指定の宿舍水道街榮屋ホテルに入る

隣室から火事

夕餉をすまし、國への端書も認めをはり、無大狗イザ一戰と立ち向かへる刹那、女性の叫び聲につゞいて、男性の怒號が固く閉ぢたドアーの外に聞ゆるも、酒醉の戯れ言かと別に氣にもかけず一石、一石丁々戰を進む内、ます〳〵喧噪の度を加へたるが爲め何事にやとドアーを排すれば隣室より黒煙濛々と吐き出すを見つけ物をも言はず、携帶品の整理にかゝり立ち退きの準備にかゝれる時突如、電燈が消え、全く地獄世界となつた、同室にありし作山氏殆んど度を失して、ウロ〳〵して、おれを置き去りにするな、君、待つてくれ〳〵と唯だ叫ぶのみ、このさわぎに待たれるか、早く仕度をとゞなる、百澤君はこの時入浴中、女中に非常警報をうけ、これ又、驚いて身に一物もつけず素裸体で飛び込んで來る、上を下への大混雜も約一時間程で事がすんで一同ほつとしたが、其時の憶病者も事がすめば豪い者と化し「このさわぎに待たれるか」の一言を楯に禮も言はずにこする事甚しこれも、隔なき友の戯言面白きかな

生兎協議

植田町農會

植田町農會では十二月一日植田煙草收納所で生兎の出荷に關し協議會を開く

不用品純益

昨日市役所へ

既報、簞笥や押入れに死藏してある衣類や其他の廢品を處分して幾分でも御國の役にたてませうと去る二十六日市公會堂日本間に不用品交換即賣會を開催頗る好評を博したのは既記の如くであるが昨日金成キミ、桑原ナカ、松野尾竹子、川崎トク子の各夫人が代表純益の中から市銃後奉公會に二十圓、隣保館建設資金に十圓、合計三十圓を寄附したが隣保館への團体寄附はこれがトップである

夏服使用「差支なし」

磐中が父兄へ通牒

手袋は嚴禁

磐城中學校では生徒の冬服調製難に鑑みこれが對策を考究中愈々今冬から夏服使用差支なしといふ事に決定その旨父兄へ通知したが眞冬に夏服使用は一面生徒の健康保持の上からも奬勵すべき事だと好評を博してゐる、尚之と同時に自轉車通學生以外手袋を禁じた

經濟戰強調

納稅週間行事

戰時經濟強調は十二月一日から師走一杯實施されるが平市では十一日から十七日までを經濟戰強調納稅週間とし左記行事を行ふことになつた

◇十一日（趣旨徹底日）講演、座談會、常會等を開催納稅成績向上に努め、各學校では納稅に關する訓話をなし書方綴方等にも納稅思想を盛込み、官公署でもあらゆる機會に納稅講話をする

◇十二、三日（納稅組合の設立並に加入勸奬日）既設組合は內容の擴充強化を圖り未設置組合部落は常會を開いて組合結成に努めこの際吏員は必ず出席指導する

◇十四日、納稅日

◇十五、六日、完納督勵日

◇十七日、表彰日 優良納稅組合納稅功勞者を表彰、縣よりの表彰狀を傳達

半島人の代表が 傷病兵慰問の旅

平協和會では一泊二日間の豫定で縣下各陸軍病院の傷病兵を慰問することになり今二十九日本多刑事に引率され平の金鍾生さん、小名濱の劉三出さん。江名の尹尚求さんの三名が平發午前六時十二分で出發した

虎眼檢診の日割

平市の今年度トラホーム檢診は左記日割で行はれる

△十二月四日—三、四丁目△五日—新川町△六日—南町△七日—大町、十五丁目△八日—堤ノ内、月見町 九日—鎌田町（醫師南町星眼科醫院）△四日—長橋町 五日—研町、古鍛冶町 七日—鍛冶町△八日—久保町 九日—八幡小路（醫師古研鈴木眼科醫院）△四日—紺屋町△五日—一丁目△六日—二丁目 七日西城跡 八日—北目 胡麻澤△九日—中鹽、四ツ波、幕ノ内、館岡、大室（醫師紺屋町吉田眼科醫院）

一家から 五名

第一線に

上遠野村樹岸高崎丑太郎さん（步兵一等兵）の一家では實弟恒哉一等兵、嘉大准尉、重太郎上等兵の三兄弟が出征、名譽の軍國家族としてさきに表彰されたが相ついで丑太郎さん次男隆晴君が從軍、次いで三男重實君が現役志願で田中部隊に屬し活躍中で一家から五名が第一線で武勳を競つてゐる、また同字柳田常重さん方では二男正男、四男守君五男五郎君の三兄弟が從軍した

貯金横領

餘罪も發覺

目下住居不定甲府市住吉町生れ石川忠（二九）—假名—は本月なかば頃錦村における友人相馬侍作君から拂戻し方を依頼された郵便貯金七圓を着服した外同じく友人丸山作爲君の現金十四圓腕時計其他二點、更に小口 吉君、

四倉武德會

武德會四倉分會の演武大會は十二月十日午前九時から四倉セメント演武場で擧行、各分區の劍道、柔道、弓道の優勝旗爭奪戰が展開される

平市人事

回死亡

△材木町四四目下横濱市中區堀ノ内町一ノ六三高野玉枝さん（三三）

ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間 音樂劇「魔王」より、大阪音樂劇研究會
▼後六、二五 ラヂオの話（三）「受信機の選び方と聽取障害」日本放送協會技術局試驗課長百束樹
▼後七、三〇 國民歌謠「旅愁」◇懸賞ドラマの夕◇
▼後七、四〇 ひと日送りぬ、村瀬幸子東山千榮子
▼後八、二〇 將軍曉に死す、青山杉作
▼後九、〇〇 汽車が來る 大矢市次郎、吉野光枝

明日の部

▼前九、四五 幼兒の時間 名作物語「臆病な兎」大阪童話教育研究會
▼前一〇、〇〇 衞生メモ
▼前一〇、〇〇 家庭の時間
▼後〇、〇五 （ハルビンより）合唱「ロシヤ民謠」とウクライナ民謠」大ロシヤ合唱團
▼後五、三〇 婦人の時間「戰時下に於ける食糧の重要性と最近における米穀事情に就て」農林省仙台米穀事務所長近藤寬保
▼後六、〇〇 子供の時間 解說と錄音「十一月の出來事」村岡花子
▼後六、二五 ラヂオの話「受信機の故障の見分方と簡單な手當」日本放送協會總務局加入部平塚新次郎
▼後七、三〇 國民歌謠「旅愁」指導關種子
▼後七、四〇 錄音ハイキング
▼後八、〇〇 講談「め組の喧嘩」神田山陽
▼後八、四〇 時局談話「時局下の食糧問題を語る」農學博士佐藤寬次

戰國間諜傳

大井沢 龍 作
山科 一郎 畫

第百二十九回

お國歌舞伎（二）

[illegible]舞台では今[illegible]の[illegible]やかな踊り[illegible]の女は[illegible]に[illegible]ひ、[illegible]の長い[illegible]を[illegible]び、紅い[illegible]をまとい、[illegible]と[illegible]とを[illegible]に[illegible]き、[illegible]を鳴らして[illegible]大[illegible]の[illegible]子に合せて[illegible]と云ふ[illegible]のやうな「ワキ」役か[illegible]に踊るであつた。その[illegible]の[illegible]さ、さながら[illegible]の舞ふ如く[illegible]で、[illegible]な身振りと共に、見る人をすつかり酔はせて了つた。一同は、とともに[illegible]のお國歌舞伎とて[illegible]に見入つてゐて、[illegible]へ[illegible]、[illegible]と口に手をあてゝお[illegible]ひ潑ばすほど、千姫、おちよぼの二人が席をはづしたのは[illegible]の[illegible]さへ氣がつかずに、お國の舞台に見とれてゐた。この本多家の[illegible]ひの一人におちよぼ[illegible]と云ふ女が[illegible]た。この女は、[illegible]の[illegible]にあたる[illegible]の生れ、一年前に[illegible]を[illegible]つて江戸へ出て來たのを、[illegible]が[illegible]入りの[illegible]をたどつて本多へ[illegible]させた。[illegible]、[illegible]な[illegible]だつたと見へて、[illegible]中の[illegible]がられて、ずん〳〵出世もして[illegible]との[illegible]ではお次の役まで上つてゐた。[illegible]は[illegible]と千姫とを引合せるについてこの[illegible]を利用したら[illegible]ひついて、[illegible]の[illegible]け人になつてゐる米村[illegible]門と[illegible]に[illegible]を打合せておいたのだつた。「[illegible]人[illegible]の[illegible]、[illegible]女の[illegible]について、[illegible]にお[illegible]ひ申上げたき[illegible]がございまする。何卒お[illegible]の[illegible]、[illegible]まで[illegible]を[illegible]ひ下され」その[illegible]門から[illegible]を以て[illegible]な口から千姫附のおちよぼまで[illegible]へさせたのだつた。おちよぼ[illegible]、[illegible]。[illegible]、おちよぼは、[illegible]のことを千姫に[illegible]告げたる。

のだつた。千姫も[illegible]ひであつたとみへてそれをきくと、[illegible]く時を見計つて、おちよぼに目[illegible]せして、そうと席を[illegible]し、縁[illegible]に下り立つと、そこには[illegible]へてゐて、その[illegible]内にそぞろ歩きをする[illegible]ひ、ずつと奥まつた松の[illegible]を[illegible]いて行つた。其處には[illegible]門がたゞ一人、今日の[illegible]やかな[illegible]をよそに、さびしく待ち合せてゐた。姫の姿が[illegible]すと、恭々しく[illegible]へた。そして一[illegible]以來の[illegible]をとり交し、自分で[illegible]すゝめた。

「[illegible]、[illegible]中よりの[illegible]ひ、せめて[illegible]あるうち一度大[illegible]へ[illegible]り[illegible]し供養をいたしたき[illegible]に[illegible]ります。何卒[illegible]と[illegible]より[illegible]々[illegible]へ[illegible]とりなし下さりますやうに」

[illegible]女のために千姫に[illegible]した千姫も、その身の上が[illegible]と[illegible]父君に[illegible]へ上げてよき[illegible]とり[illegible]ふことを約束し

「[illegible]とりすましたと[illegible]分[illegible]に手をつくし、また元の[illegible]やかな身に立ちかへつて[illegible]の[illegible]に[illegible]へてくれるやう、[illegible]に[illegible]してくれやれ――」

と[illegible]しい[illegible]々のいたわりの[illegible]を[illegible]門もその[illegible]しい姫の[illegible]をきいて、老の[illegible]を[illegible]ら

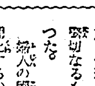
「はツ、[illegible]、本人に申し聞けなば、いか[illegible]か[illegible]び[illegible]す事でございませう」

何[illegible]も〳〵老ひの[illegible]を[illegible]にすりつけて[illegible]く[illegible]を申しのべた。[illegible]女のあはれな身を[illegible]ひやつてか、目に[illegible]をうかべて、[illegible]の、[illegible]でそうと[illegible]をふかれるのだつた。

今日は[illegible]入りの化粧した千姫の姿は、まことに美しい[illegible]く見へるのだつた。お次の[illegible]、おちよぼも[illegible]いてゐた。[illegible]、かすかに此の[illegible]さんざめきがきこえてゐる。

小ばなし

久しぶりで逢つた友人に「今は何をしておいでです」と尋ねると「實は今、浪人してます」との返事に「フーム、さりとは古風な御商賣ですな」



婦人大衆の能力

大竹せい

あるお役所から婦人團體の活動强化について意見を徵してきた文章の中に「婦人の國民的活動參加を合理化するの要きわめて緊切なるものあり云々」とあつた。

婦人の國民的活動參加を合理化するのに、何がいちばん必要かといへば、なるべく多くの婦人に積極的な創意をもたせ、活動のチャンスを與へその能力を高めるやうに仕向けることであらう。

そのためには文化面でも、政治面でも、多くの婦人を家庭との牽制から解放することがまず考へねばならぬ筈である。

ところが、現實的な政治的機構においてか、ふたこと目には「女よ家庭にかへれ！」とおし込められ「教育も早く切りあげて多く產め！」といはれるのが現在の女の立場である。

ごく少數の選ばれた女性たちの活動が近ごろ目ざましく行はれてゐるのはよろこばしい事であるが、大衆としての婦人はかへつて右のやうに意識の發達をおさへられがちな傾向が感じられるのである。

婦人團體の活動がとかく少數の指導幹部の事務形式主義に陷つたり團體同士のつばぜり合ひが問題の組上に上つたりするのも、結局は婦人大衆の意識の發達がはばまれるやうになつてゐる所に原因があるのではあるまいか。

事變以來增加した不良少年

十七八歳が最も多い

頭のよい兒か低能兒

原因はどこにあるのか？

事變以來、最近になつて不良少年が漸々方々に出現し不良少年による犯罪事件がいちじるしく增加してきたといふ記事を新聞紙上に報道する際に、その原因がどこにあるかを愼重に考へてみるべきです。不良少年の[illegible]に當られる少年審判所保護觀察員の御意見をうかゞつてみました

‥

私は常日頃から考へてゐますが、一般的に犯罪は國民に經濟的な餘裕さへあれば絕對不景氣にかゝはらず減少する、つまり犯罪の增減は國民經濟の緊張弛緩にあると思ふのです、それで日支事變のおこつた當時は十二年から十三年の上期にかけて犯罪が大へん少なかつたのも戰後國民の精神が緊張してゐたからに外なりません、ところが十三年後半から十四年にかけて一般的な犯罪が次第に增加して來ましたそして不良少年の增加は常に一般犯罪の增加に正比例するものですが、これは主として大都市にみられる現象で田舍ではすこぶる少ないのです

どうして都市に不良少年がふへてきたかといふ原因には大體次の二つがあります

（一）軍需工業の繁昌

（二）人的資源の不足に刺戟して、家庭內に於ける少年監督の不行屆といふことも、不良少年增加の重要な原因と云へませう

激し、その結果不良少年の增加を惹起したものと思はれます

元來不良少年の問題は都市の問題ですが都市の問題である前に家庭問題の重要味が缺けてゐるためです一種のインフレ關係から親の收入がふへると、子供に與へる小使ひも多くなるし子供が就職しても、工業方面では豫想外にたくさんな賃銀がもらへるために自制心がなくなつてつい娛樂方面に耽溺するやうなことゝなるのです、働きさへすれば金は自由になるといふ安價な考へが少年をして非常な放逸に流れさすのですが、大戰當時のドイツに發生した不良少年の數に比べますと日本は本當にすくないのです、どんな少年犯罪が多いかと申しますと

（一）工具の窃盜犯

少年は眼先の利益を追ひ、安い金額の誘ひに誘はれてゆく、さういふ場合工具たとへば機械製品とかハンマーとかヤスリなどを所持しておれば、高い金額で賣ることができますので工具を盜むのです。それに工具や機械などが法外に高く賣れますので自然さういふものへ盜難がはやるのでせうが、この犯罪は職業的に生れた大變な惡質なものです

（二）短刀所持の犯罪

軍事思想が普及したために短刀が流行になり喧嘩口論の末人を傷つけるといふ態ですが、これもかなり多くなつてゐます、時々ピストルを所持してゐる不良も見受ける有樣です

その他全國的に幼少年のカツパラヒとが多くなつてゐます、特にクツ物のカツパラヒの多いのはやはり高く賣れるからでせう

年齡的では十七歳から十八歳が一番多く、智能的には極めて頭のいゝ者と低能兒が多く中間の者は極めてすくない、資產五十萬といふやうな良家からも不良少年がでてゐるのなぞ明らかに家庭のきん束がたりないからです、で當局は主として家庭報告人に對する指導をはじめてゐますが不良少年の根絕を圖るためには家庭の時局に對するきん張した認識と指導監督から出發しなければ不可能でせう（[illegible]は某少年保護所の收容兒）

子供を叱る場合

理窟を聞かせるより率直に

叱るべきこと三ケ條

子供に對してはまづその子供の性質を正しく觀察する必要があります。氣のちひさい子供、呑氣なこども、神經質なこども、眞面目になんでも深刻化すやうなこども、家庭では自分のこどもを叱るときに無意識的に叱るやうな場合が多く、惡いことにはかうした場合に 姉の人は色々なふへいのはけ遊がないためにこどもにあたる樣な叱りかたをしますがこの樣な叱り方は禁物であるから愼んでいただきたい、叱るときには冷靜な氣もちで叱ることが必要ですが時としてはこどもの氣もちを緊くさせないために、輕くユーモアを交へて叱るやうな試みも望ましいと思ひます。要はこどもの過失に ついてそれを繰返させないやうにすればよく、自然に啓發するやうにしてほしいです。若いお母さまたちの中に叱ることよりも理窟で云つてやる方が合理的だと考へる方がありますがそれは效果はあまりないやうです。こどもは[illegible]でいはゆるこどもつぽい理窟なところがあるから、くどくどとしたしかり方よりも端的に率直なしかり方がよいやうです。そしてしかる時は愛情こめて眞心でしかつてください。こどもは感受性が强く大人よりもむしろ鋭敏に心の動きを感受するから他人の前で簡單にしかるといふやうなしかり方はいけません。[illegible]は次のやうな場合にこどもをしかることにして效果をあげてゐます第一には行つては惡いとわかつてをりながらやつた場合第二には自分の行爲は別に惡いことではないとしても他人に迷惑をおよぼす場合、第三には人の死傷に關係する場合です

幼い時から他人がしたから私もしたといふやうな卑屈な氣持を抱かせ、こども自分で自分を尊重して行くといふやうな精神を打ち込むことが母親としては大切な義務だと思ひます。それには服從はつまらないことをくどくどしからないやうにして效果のあるしかり方をするやうにして下さい。

人柄を示す履物

永保させる手入れ法

訪問したとき玄關にそろへられた草履や下駄のよごれたものは穴にも入りたい心地のするものですが外出用の履物はなるべく自分の手入れをして永保ちのするやうにしなければなりません

最近の流行としては革草履が全盛ですがこれも皮革の統制からほとんど代用皮革になつてゐますがレザーでも手入れの如何によつて相當長くきれいでゐるものです、使用後はよく乾いた布でまはりを拭き褐色の靴用クリームを布につけ[illegible]

[illegible]らせたら[illegible]きます

これ[illegible]くなく、[illegible]にすこし[illegible]がありません、手入れが惡ければ橫のところを[illegible]い紙でつゝみ箱に入れてなるべく濕氣ないところ、下駄箱の上部におくやうにします

接待用にも一寸した外出用にも[illegible]の下駄がこのごろ非常に用ひられてゐますがどんなまさ目のよいものでも汚して履いたらそれこそだらしのないものです。履くごとにぬれ布で拭きことに脂あしの人は時どき石鹸をつけて洗ひきれいにしておくことです

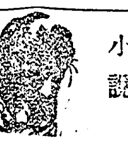
普通用のもので齒のついたものは、齒のまくれたのをけづることを忘れぬ樣に注意したいものです

分け目で新味

若夫人向き秋の髪

[illegible]髪も自然質素となつて、ちかごろは一般にシンプルになつてまいりました、そこで、このまゝでは變化が見せられず、千ぺん一律の形になつてしまふ傾向があります

のでちかごろは、毛の分け方を變へて新味を出すことが考へられてまゐりました、分ける箇所は七三とか前からとかきまつたものではなくどこから分けてもかまひません、耳の邊なども、前髮は思ひ切り頭の上のはうからとつて大きく上向きにカールしてあります襟足うしろにとかすべきものゝようにあきらめられてゐた後の毛も、ロールの上のあたりから逆に前へくと梳つて、前の毛と一緒にして、大きくウエーヴとカールを見せたのです そして殘つたうしろの毛をぐるりとロールにいたしました、このロールも、髪が比較的長い方ですとひどく頭だけに見えますからこのように大部分の毛を前にもつて行けば、ロールも大きすぎず形もよくまとまります 分け方と毛の方向を今までの線を變へただけでこんなに新しみのあふれたものができましたお孃さんから、若夫人向にもよいおちついた髪です



時局小說

（[illegible]上演映畫化）

驀進

士別正樹

北野傳画

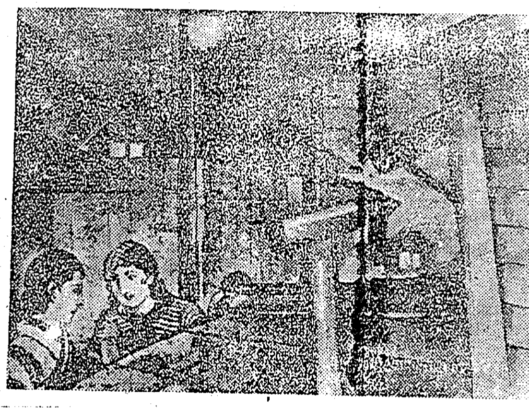
第二十回

惱み（五）

かの女は、燈三の親切にしてくれる度には、勝ちな態のあることを見受けないほどに、愚かではなかつた。

そして、燈三から賴りとなる感謝を[illegible]師として居數の方へ來て惱るやうにさゝへられてゐるのだが、駈田家に行くことは[illegible]を入れる第一步であるやうな氣がしてならない。そして、かれの愛を入れることは、暗い、暗い不幸の途の中に飛ぶる、初の門であるやうに思はれるのだ——。

さうかと云つて、燈三の好意に背かうとすると、暗くにして[illegible]へ歸つたかの女の[illegible]くなること



を犠牲しなければならない。自分一人が、犠牲になるか、それとも自分の若さも肉體も、すべて一家のために犠牲にしてしまはうか。——それとも家族たちを棄てゝも自分の、一生を守らうか？——

それにも增して、苦しいことがかの女の胸には秘められてゐた彼女は、自分に對して人並みならぬ好意を寄して惑る中野に對して、最初は、あふるゝばかりの感謝の念を抱いてゐたのだつたが、それが、いつか、感謝でなくて戀に變つてゐた——仲間では、それを自分でも、はつきりと意識せねばならなくなつてゐた——。

中野は、自分の一家を救つて呉る恩人であると共に、若さも男性的なその容姿——之を燈三と比較したならば、中野の方が身を飾つてないだけ、それだけ勝ましくないと云へるが、かの女の若さに映る、自然の容姿の下にある、或る冷やかなものを感じないではゐ

られなつた」

それとは反對に、しつかりとした中野の胸に、その一生を托すことは、ともかく、幸福な一生をかの女に約束してくれるやうに思はれる。

とは云へ、中野のはうでも、自分と同じに、心を持つてゐてくれるだらうか？——かう考へて來ると、かの女のこゝろの どこかでは、「否！」と叫ぶものがある。

多幸な未來を待つてゐる中野が、自分なんかに關心を持つてゐるわけはない——况して、生活にあえいでゐるやうな女に、こゝろを向けるやうな中野ではない。

——と彼女のこゝろのどこかでは叫んでゐるのである。」

——それだつたら、一層、この醜めたる想ひを胸に抱いたまゝ、一層、朽ち果れてしまつたはうがいゝだらうか？——と、かう考へて來ると、かの女は、中野のことで、何一つ見出すことができなかつた。

中野は、かの女のことをどう[illegible]などは、少しも意識してゐない樣子である。

さう考へてくると、彼女の胸から[illegible]がしてくるのであつた。

「いゝわねえ、[illegible]」

由紀子が二人に近づいてくると、燈三が今度は先に立つて、やや早足に先へ歩いて行つた。

「あなた兄をどう思ふ？」

「どうつて？」

由紀子の云ふ意味がどんな意味なのか、彼女は判らうとするのか。由紀子は初めて氣がついて眼は由紀子の[illegible]

移轉廣告

今般左記へ新築移轉致候間御通知申上候

昭和十四年四月

平市南町十四番地（警察署通り角）

（舊診療所　平市六丁目）

木村外科醫院

外科一般
內臟外科
性病科
肛門病科

◎入院應需

木村淳

電話三九〇番

大塚の……實質サービス

純毛冬のヂヤンパー　八・五〇より　高級最新型

純毛スキーズボン　一二・〇〇より

サージ・メルトン　普通長ズボンに…

外各種　豐富

◇牛皮製品

男女學生靴
紳士靴
小供靴
各種

平市田町銀座通

其他各種運動具……豐富

大塚

電話七七番

齒科口腔外科

レントゲン科

院長　東京齒科醫學士　原精一

電話三一番

平市土橋通

原齒科醫院

磐城セメント會社特約店

釜屋商店

磐城平市五丁目

電話九・九九

□良品廉賣に勝る商略なし

□確實敏捷は久の生命なり

お醬油はヤマフル

醬油味噌
たひら正宗
鰹節食料品

福島縣平市

釀造元　鹽屋

電話一〇・二七番

明治生命磐城代理店　山崎與三郎

新鰹節と"美味"しいうにの罐詰

魚問屋

志賀盛榮商店

平市四丁目（電話二一三番）

日本生命會平代理店

吉田眼科醫院

平市紺屋町　電話六八番

醫學士　吉田久雄

◎女車掌（三名至急募集）

1、未經驗者ニ限ル
2、委細面談
3、優遇ス

三井タクシー

平市二丁目

電六八五番

メガネは！

玉屋

平市二丁目

專門

花柳病科
婦人科
產科

▼入院隨意

井坂醫院

平市田町　電話五五九番

◎見習看護婦募集

風熱頭痛　アコーラヒタ

本品は當藥局主藥劑師責任調製研究せるものにして解熱、鎭痛張心興奮の作用を有する。故に流行性感冒、頭痛、肺炎齒痛、ロイマチス腰痛等に效あり大人一回一包宛特に白砂糖にて頓服用す。

正價　三十錢、五十錢、一圓

喘息百日咳　鎭咳藥「アコー」

本品長井博士發見麻黃取エフエドリンを主藥に高貴藥數種配合せるものにして喘息百日咳肺、急慢性氣管支カタル、感冒等々喀痰咳嗽に效有り

正價　五十錢、一圓、二圓

平市古鍛冶町一〇（縣社石段下）

製劑發賣元　阿康藥局

責任者藥劑師　明治藥學士　阿部康雄

電話四四番

振替東京三〇〇六五番

◎診療科目

一、齒科一般
保存科、補綴科、補綴槽工科
小兒齒科、槽漏膿科、齒列矯正科

一、口腔外科

一、レントゲン科

平市田町（松月堂向）

中野齒科醫院

電話五〇九番

院長　日本齒科醫學士　中野憲次

日本齒科醫學士　鹽谷伍郎

補綴主任　佐藤重義

御婚禮御着附

パーマネントウエーブ

和洋結髮
オゾン美顔術
御染港洗毛
御爪美術

◎御婚禮用の"かつら"も御座います。

平市驛前

水野化粧院

電話六七八（營業所）五二五（自宅）